

ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学保育学科／子ども学科

准教授 山村 穂高

1. 教育の責任

(1) 担当科目

2025年度の担当科目は（表1）の通りである。

（表1）2025年度 担当科目詳細一覧

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
保育の心理学	2024	前期	1年生	講義	47名	1クラス
アウトドア演習B	2025	後期	2年生	演習	11名	1クラス
子ども学ゼミナール	2025	後期	2年生	演習	10名	1クラス

(2) 学科の一員としての職務

学年ごとの授業や検定、行事など、各学年のサポート及び連絡調整を行っている。
上記以外の授業としては子ども学演習、子ども学ゼミナール、スキルアップセミナーⅠ・Ⅱなど、検定としてはnatural保育検定、行事としては、新入生研修、保護者懇談会、山緑祭（学園祭）、ディズニールランド研修、ヨーフラヨーフラ（学内にテーマパークを作り、近隣の園児を招待する行事）、学習成果発表会などである。

(3) 副学長としての職務

① 学長の補佐

短期大学の円滑な運営と課題の解決に向けて、学長を補佐している。

② 教授会の運営

月一回行われる教授会の議案について、適切な決議がなされるよう議案の調整等を行っている。

③ 学科会運営のサポート

学生の様子や各委員会の取組みなどについて状況を把握し、全体の調整を行っている。

④ 申請業務

法令の改訂等に伴う申請業務や補助金に関する申請業務について全体の調整を行っている。申請については、定員減員に関する申請・届出を、補助金に関しては、高等教育無償化に関する申請業務、改革総合支援事業

に関する申請業務を行った。

⑤ 法令への対応

教学に関する法令の改訂や社会保障に関する法令の改訂に対応し、学内の規程類を見直している。今年度は介護・育児休業等の規程について点検している。

⑥ 人事

教職員からのヒアリング、教職員の人事案作成、教員の担当科目案の作成などを行っている。

⑦ 広報活動

入試広報委員としての職務とは別に、地域の高等学校、中学校の PTA 約 70 か所に対して、広報紙を配付している。また、県立高校の家庭科教員と子ども学科との連携の可能性について模索している。

近隣幼稚園、保育園に本学チラシを配付した。

⑧ 学生・保護者との面談

学生生活に関する相談について、学生、保護者との面談を行う。

⑨ IR に関する事項

IR 情報の収集や集計を行っている。

(4) 事務局長としての職務

事務局の責任者として、短大運営にかかわる事務全般について統括している。具体的には、人事、労務、教務、学生支援、進路、施設設備、補助金、文部科学省・厚生労働省への対応などである。

(5) 経営・企画委員としての職務

教学に関する委員会間の情報共有や将来構想の構築、自己点検評価を目的として作られた委員会を運営。学生一人一人に関する情報、各委員会の取り組み状況、学科の行事準備の進捗状況、自己点検評価の進捗状況などの情報を共有している。また、経営にかかわる新たな取り組みについての提案を行っている。さらに緑豊かなキャンパスを活かした教育テーマである「遊んで学ぶ」の具現化について、SDGs への取り組みについて検討している。

(6) 入試広報委員としての職務

オープンキャンパスの企画運営、高校訪問、入試のほか、高等学校への出前授業の実施や進路ガイダンスへの参加をしている。その他、広報活動として S

NSへの配信などを行っている。

(7) ALO

第三者評価時には ALO として、自己点検・評価の推進について担当している。

(8) 法人本部法人副本部長としての職務

法人本部副本部長として、法人全体の運営に関する協議、短大との連絡調整などを行っている。三校運営委員会を開催し、3校間の調整を行っている。

(9) ネットワーク委員としての職務

学内のネットワークの管理、SNSの運営などを行っている。

2. 教育の理念

(1) 建学の精神について

質実、英知、愛敬が本学の建学の精神であるが、女子高時代には英知は貞淑であった。質実、貞淑、愛敬は、飾らず、ぶれず、人を大切にすることを意味する。建学の精神は学校によりそれぞれであり、人格の完成を目指すもの、社会の理念を示すものなど多種多様である。本学の建学の精神が見据えるものは、人々の笑顔と幸福である。本学の建学の精神は、人々の笑顔と幸福を実現するための、その瞬間の人の在るべき姿勢を示している。社会貢献に向けた一人ひとりの在るべき姿と言ってもよい。本学、あるいは本学園のよりどころとして、この精神を大切にしていきたい。

(2) 本学の在り方について

少子高齢化は、本学が位置する埼玉県西部地区においても例外ではなく、18歳人口は依然減少傾向にある。その一方で共働き家庭と子育ての両立は大きな課題であり、保育園、幼稚園のニーズは依然高い。本学としては、日本の将来、子どもたちの未来のために、地域で子どもを育てることの重要性を深く認識するとともに、質の高い教育を実践し、社会に貢献できる保育者を輩出していきたいと考える。

本学の学習上のテーマは「遊んで学ぶ」である。経験は人を育てるもっとも強力なプロセスである。緑豊かなキャンパスで、幼少時に経験した遊びや幼少の気持ちを再体験し、その感覚を呼び戻すとともに、保護者、保育者の視点か

ら遊びと子どもの発達について専門的に考える。

また、今年度から月曜日をセルフブランディング Day とし、授業を入れず、学生が主体的に計画を立て実行する日とし、効率的かつ柔軟な時間の使い方ができるようにした。

さらに、今後はSDGsを取り入れた教育を本格化し、ファイヤーサークル、自然観察用プロムナード、薪作り等、脱炭素化社会実現に向けた教育的な取り組みについて研究していく。各授業、行事において、できるだけ体験的な要素を取り入れ、対話的で主体的な学びを実現していきたい。

(3) 教育観

「よりよい社会作りに向けて自ら考え実行できる、自律した人作り」を目指したい。自分が子どもの頃思っていた大人のイメージと実際にその年齢になった時の自分のイメージはかなり違う。思っていたほど大人になっていないという感覚が実際には強い。このように、人は子どもから大人への連続性の中にあるものなので、学生と接する際には、お互いに同じ人として一定の敬意をもって接するべきだと考える。もちろん必要な指導は行わなければならないし、時には厳しいことも言うべきであるが、学生のすばらしい部分については率直に認めていくことが大切である。言い換えれば、相手の存在を受容し、認めつつ、いかに必要なことを伝えていけるかということである。良いものはよい、悪いことは悪いとしつつ、愛情をもって学生の未来をともに考えていく姿勢を常に点検していきたい。

本学の小規模定員の枠組みの中では、一人ひとりに適した多くの舞台を用意することができる。たとえ小さな舞台であっても、そこに立てた自信や自己効力感がきっかけとなり、今まで気づかなかった自分を発見し、自律できるようになってゆく。私たちの、学生への姿勢そのものが学生たちに教育的な影響を与えているのである。学生は、本学での教員の姿勢を見て、就職後、子どもたちにどう働きかけるかを考えるかもしれない。私たちは、常にそのことを銘記して学生への指導に当たりたいと思う。

(4) 授業

授業は最も重要な時間である。限られた時間の中でいかに知識や理解を深め、応用可能な技能、態度にまで引き上げていけるかが大きな課題である。演習、実技科目については、より体験的で対話的、主体的な学習を促進する授業内容にすること、講義科目については、双方向型の授業や画像・動画を使用した疑

似体験的学習を通して、知識、技能、態度の定着を図りたい。

授業の準備についても可能な限り手間をかけ、学生たちの理解のためのさまざまな工夫を行っていききたい。

(5) 学生指導

学生生活、進路、学習その他、学生に対して適切に指導を行うことはとても重要なことである。そのことで生活環境や内面を整理し、学習に集中できるようになるからである。指導内容は、怠学への指導、悩みの相談、学習へのアドバイスなど様々であるが、前述したように学生の存在を受容し、認めながら指導していききたい。

(6) 地域社会との連携

子ども学科においては、他の学問領域以上に地域とのつながりが重要になってくる。毎年、数十カ所に及ぶ保育園、幼稚園、福祉施設で実習をさせていただき、就職についても地元の園への就職がもっとも多い。地域社会との連携という意味では、実習以外の分野においても地元の園との協力関係を構築していくことが大切であるし、ひいては地元の行政との連携、小学校、中学校、高校との連携を視野に入れた教育を実践することが重要である。

3. 教育の方法

建学の精神に示された社会貢献への姿勢は、学生の顕彰制度である建学の精神賞に具現化されている。

教員としては、学生に対する丁寧な対応をしていくことがすべての教育活動のベースとなる。そのことによって誰かのために貢献することの姿勢や意味を学生に伝えることができる。

「遊んで学ぶ」については、授業見学、授業評価アンケートをもとに学科内の研修、検討会を開催し共通理解を深めるとともに、SDGsの観点から、各授業内で屋外授業、アクティブラーニング、ICTを活用した双方向型授業などを取り入れた授業を展開する。

「よりよい社会作りに向けて自ら考え実行できる、自律した人作り」については、常にカウンセリングマインドを持って学生に接することとし、小さなことでも自信が持てるような応答ができるよう努力する。1年生については、学内への適応を第一に考え、学習や学生生活について重点を置く。2年生については、社会人としての準備として、礼節を身に着けられることに重点を置く。

授業については、準備に時間をかけ、授業内で提供できる内容と伝え方を精査し、パワーポイントの活用を始めとし、携帯アプリを使用した双方向型の授業展開、さらには自主的学習についても配慮していきたい。私語の取り扱いについては大変難しい面があるが、①座席を指定し、それを週ごとにローテーションする。②最前列をフリーに着座できるような場所とし、学習意欲を引き出したい。また、話し方に関しては、適度な速さで、かつよどみなく話しをし、知識の吸収を促したい。

学生指導については、前述のようにカウンセリングマインドを忘れず、どんな学生に対しても、よいところをしっかりと理解しつつ対応していきたい。

地域との連携については、学外の機関との連携を図り、研修会や就職説明会などを企画し、地域の園、高校のニーズに応えられるようにしていきたい。

4. 教育の成果、評価

2025 年度前期及び 2024 年後期の定期試験前に、学生に対して授業アンケートを実施した。問 4：総合評価、自由記述は（表 2、表 3、表 4）のとおりである。

（表 1） 2025 年度の前期授業アンケートの結果一覧

	問 4 全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。5 点満点	自由記述欄
保育の心理学	4.6	・ 授業の初めて、前回の復習ができて理解が深まった。 ・ 心理学には、興味があったので、楽しく授業を受ける事が出来ました。 ・ あっという間に終わってしまったのが残念です。 ・ 2 限続けてでの授業ではない方が良かったです。 ・ 穂高先生の今まで経験された仕事と心理学との関連性のあるお話は、とても興味深く聞くことができ、心が温まるエピソードもありました。 ・ 子どものつづきによる応答を考える時に、自分だったらどうするか考えることが出来てよかったです。 ・ 聞き取りやすい声でよかったです。 ・ スライドが簡単かつ要所を重点的にまとめられて分かりやすかったです。 ・ 授業が始まった時に前回の振り返りをしてくれて、内容を復習することができた。 ・ 山村先生と巢立先生の資料の作成方法が違いため見づらいところがあったりわからないところがあった。 ・ 心理学とゆうものに対して難しい印象でしたが分かりやすい説明かつ楽しんで学びました!! ・ ありがとうございました。 ・ ロールプレイが沢山あって楽しく学べました! ・ 心理の分野が学べたから良かった。 ・ バナナやみかんが美味しそうだった ・ ずっと心理学についてまたびたいと思っていたので楽しかったです。 ・ 式などを学べたので、今度は応用もできたらと思います。 ・ ロールプレイもあってわかりやすかった ・ 楽しかったです ・ 授業のはじめに前回の復習をするのはとても良いと思った。 ・ 巢立先生、山村先生ありがとうございました ・ とても分かりやすかったです ・ 楽しい授業をありがとうございました。初めて耳にするワードや、事例も聞くことができ、とても為になった。

		・ ただ、山村先生のパワーポイントは小さくて見辛かったので、他の先生方と同様、一枚に4つにさせていただけるとありがたいです。 ・ そして、巢立先生のパワーポイントも両面印刷にいただけると、枚数は減らせるのかなと思います。 ・ 授業の為にたくさんの資料を作っていただきありがとうございました。これからも参考にさせていただきます。 ・ ロールプレイを通して学んだのが、実践でどのように活かすか見通し(?)が持ててとても良かったです。 ・ 心理学にもいろいろあることを知れた。 ・ 発達障害について特徴や保護者への対応など具体的に知ることが出来てよかった。専門的な言葉が多くて、覚えるのが大変だと感じていますが、実際保育の現場にたった時に知識として入れていくことで、柔軟な対応ができるのかなと思いました。 ・ 発達段階についての対応の仕方や保護者との関わり方などについて学びました ・ 色々な教材があって面白かったです! ・ すごく楽しみにしていた授業だった為すごく面白かった!心理学はこの先もすごく役に立つと思ったので覚えておきたいし、自分でも色々調べてみたいと思った!! ・ 現実的なことが学べて、保育者になったときに使える事例も多くて良かったです ・ 学者の理論が難しかったです。食べ物を使ったロールプレイは、おもしろかったです。
--	--	---

私が担当したのは5回分だったが、評価はよい数値だった。自由記述欄においては、資料作りについて、見やすい大きさに作成してほしいことや私と巢立先生で資料の内容、表現の仕方などをすり合わせしてほしいことが指摘されていたので改善していきたい。双方向型の授業、自主的学習を促進するためEDUNAVI（本学の学習管理システム）の機能を使い、事前事後の学習に活用した。

(表2) 2023 年度の後期授業アンケートの結果一覧

	問4全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。5点満点	自由記述欄
アウトドア演習B	4.67	・良い点演習形式で自分の体を使い学べる。教員が質問に対し親身になって応えてくれるところ。教員の経験に基づくエピソードが聞ける。改善点保育のことだけ学びたいと言う学生がいる。つまり選択科目は保育と関係ないと思う学生もいるのではない。最小限の科目を履修し卒業ができ、資格が取れば良いと思っていないだろうか。しかし生活に関わる全てのことが幼児教育では題材となることから、いろいろな経験をしたい引き出しの多い保育者の方が、子どもに寄り添うことができると思う。そのため、選択科目はその点を強調して学生に伝えてほしい。履修登録時に選択科目のシラバスを印刷し渡しても中身がわからないので、履修登録に繋がらないのではない。例えば、選択科目の担当教員が学生に科目の魅力を伝えたり（過去の講義の様子を写真や動画で紹介したり、現場でどのように役に立つのかを具体的に示す等）、履修登録変更が可能な期間中の選択科目は一度は全員参加とするなど、やってみてから履修するかしないかを決められるようなこともやってみてほしいと思う。実際アウトドア演習Bのキャンプに行ったことなどを履修していない学生に話すと、やってみたいと言う声があった。つまり、どんなことをするのかシラバスを渡すだけで理解できる学生は少ないと思うことだ。特に現役生は丁寧に噛み砕いて科目の魅力を教員が伝える必要もあるのではないと思う。履修しないからといって学生のせいにはしていないと思う。学生、教員お互いに改善しなければ選択科目履修者の増加は今後も見込めないだろう。少人数だからできたことももちろんあるので、履修者が増えれば得られなくなる教員との密接なコミュニケーション等もあると思うが、まずは選択科目がいかに面白いかを学生に伝えてほしい。 ・楽しい講義でした ・先生は私たちに合わせたアクティビティや、プログラムを考えてくださり、毎回 学びが多かったです。また、5 回分として開催した宿泊キャンプも、内容がとても充実しており、冒険プログラムを通じて仲間との信頼関係を深めることができました。体験的に知識や技術を習得できました。もっとたくさんの学生に履修してほしいと思います。 ・最高に楽しかったです。受講して良かったと、心から思いました。

天候にも恵まれ、屋外でキャンプをすることができた。飯盒炊飯も無事実施することができた。神川元気プラザのアドベンチャーアクティビティーが充実しており、評価は高かった。来年度も、テントでのキャンプ、キャンプファイヤー、飯盒炊飯等をぜひ経験させたい。

(表3) 2023 年度の後期の授業アンケートの結果一覧

	問4全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。5点満点	自由記述欄
保育入門	4.36	・楽しかったです。 ・とても楽しい授業でした。ありがとうございました。 ・特になし。 ・特になし。 ・たくさんの作業をすることが出来、保育士においてどのような事をするべきなのか学ぶことができた。 ・影絵シアターがとても印象に残っています。毎回とても楽しく取り組ませていただいています。 ・他のクラスや学校では学べないようなことができてとても貴重な時間でした。楽しかったです！ ・台本の文を自分たちで考えて提出したものを先生が台本にしてくれて、とても助かりました。次またやるようなことがあったら台本を作るところまでやってみたいです。 ・影絵でナレーションできてすごくうれいです。毎回の授業がすごく楽しいです。

おおむね高評価であったが、高校生が興味を持てるような内容に常にアップグレードをしていく必要がある。すでに高校では保育専攻のコースをなくすことが決定

しており、今後の授業の継続方法について、科目担当者間で話し合い、留意点についても共有しておく必要がある。

令和6年度卒業時本学に関する満足度アンケート				
	令和6年度 回答者数46名 回答率97.9%	令和5年度 回答者数62名 回答率96.8%	令和4年度 回答者数57名 回答率100.0%	令和3年度 回答者数62名 回答率94.0%
問1 本学に入学したことをどの程度満足していますか。	88.7%	81.5%	78.6%	78.1%
問2 いろいろな面での満足度を具体的に聞きます。				
(1)授業についてどの程度満足していますか。	79.6%	76.0%	73.8%	74.0%
(2)実習とその指導についてどの程度満足していますか。	80.2%	80.5%	73.6%	75.8%
(3)体験活動・学習や行事についてどの程度満足していますか。	82.0%	79.2%	71.4%	66.6%
(4)この2年間の自分の成長にどの程度満足していますか。	83.6%	78.2%	81.2%	76.9%
(5)就職できたことをどの程度満足していますか。	92.6%	88.6%	85.4%	85.8%
(6)本学の施設・設備についてどの程度満足していますか。	72.0%	71.9%	69.3%	65.6%
(7)友人との出会いをどの程度満足していますか。	88.3%	84.0%	84.7%	82.4%
(8)先生との出会いをどの程度満足していますか。	92.0%	85.6%	79.5%	79.8%
(9)事務局についてどの程度満足していますか。	88.7%	77.1%	—	—
2025/02/05実施				

図1 卒業時満足度調査の結果

上のグラフは、短大全体について卒業生（令和4年3月卒業～令和7年3月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「先生との出会い」、「入学」、「友人との出会い」、「自分の成長」、「就職」に関して非常に高い値である。

一方、「施設設備」に関する満足度は緩やかに上昇傾向にあるものの、相対的にはやや低い状況である。

事務局に関する満足度は、一気に11.6ポイント上昇した。

授業の充実を柱に、学生指導を充実させていくことが課題である。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

短期的目標	・ コンサルタント会社と協働し、SNSでの広告発信に力を入
-------	-------------------------------

	れ、学生募集活動を強化する。 ・ IR 情報を整備、蓄積し、より教育改善に活かせる体制を作る。 ・ データベースに関する研究を進める。 ・ 三つのポリシーと学習成果、学力の 3 要素との整合性をさらに明確化し、教育改善に活かす。 ・ 「遊んで学ぶ」のテーマについて、S D G s の考え方を取り入れ、さらに学内で共通認識を深め、授業展開の工夫や科目ごとの役割分担について明確にする。 ・ 対話的で主体的な学びについて方法を研究する。 ・ フィンランドとの連携について検討を進める。 ・ 自然保育等、本学の将来構想について研究を深める。 ・ 週 4 日授業をさらに発展させ、個性ある時間割を作る。 ・ 個別学修サポート計画をつくり、学生の自己実現を支援する。
長期的目標	・ 社会からのニーズを受け、地域社会とより有機的に連携する短大作りをし、園、小学校、中学校、高校、行政、卒業生とのネットワークを構築して、地域社会の子育て、保育に関する意識を高める。 ・ 「遊んで学ぶ」教学体制を確立し、森の幼稚園、自然保育についても研究を進める。 ・ フィンランドとの連携を強化し、子育て、幼児教育について充実した教育内容を確立する。 ・ AI、ICT と保育、自然、環境と保育について研究をし、子ども学科の方向性について検討していきたい。

6. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（保育の心理学）
- (2) 授業時配布プリント（保育の心理学）
- (3) 試験問題（保育の心理学）
- (4) 成績集計結果（保育の心理学）両面 1 枚
- (5) 授業アンケート結果
- (6) 満足度調査結果